



**峡東教育事務所**  
**地域教育支援スタッフ**  
**TEL 0553-20-2737**  
**FAX 0553-20-2733**

回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

ご意見・ご感想、情報提供はこちらまで。Email : [saegusa-aszn@pref.yamanashi.lg.jp](mailto:saegusa-aszn@pref.yamanashi.lg.jp)

## すそ 「裾を持ちなさい」

まだパジャマというものがなく、浴衣が寝間着として用いられていた頃の話です。

朝起きて、浴衣の肩のところを持って縦に振り、その浴衣をたたもうとしている子どもたちに、母親のくらは「あ、裾を持ちなさい。裾を持ちなさい。」と声をかけたそうです。そして、くらは弟の浴衣を取って裾を持ってぴんと伸ばすと、浴衣は長四角になりました。

娘のはまもそれを見て、ああ、そうだと思うので片手で裾を持って、もう片手で肩を持ってまとめました。お姉さんはもちろんすぐ、母が一言言ったらわかって三人ともほぼきれいにたたむことができたそうです。

はまは、そのとき母が「きちんとたたみなさい」と言わないで、「裾を持ちなさい」と言ったのがずっと心に残っていました。「きちんとたたみなさい」という言葉の持っている雰囲気、それは、命令口調でどこか叱られているようなこわいような気がします。

これに対して、「裾を持ちなさい」は、確実に成功できる方法を何気なく教えながら、誰でも簡単にできる具体的な方法を、ぱっと言えることばです。そのことに、はまは、だんだん大人になり教師になってみて気付きます。

以来、はまは、「きちんとたたみなさい」式で言わないで、殊に年のいかない人には「あ、裾を持ちなさい」と言えるようにしたいと述べています。さらに、「そのとおりにすればできる、そのとおりにすれば成功する、そういったようなことばをすらすらと、軽く言えるようにしたいな」と思いながら、長い間教師をしてきました。」とも言っています。

大村はま「忘れえぬことば」小学館 2005年

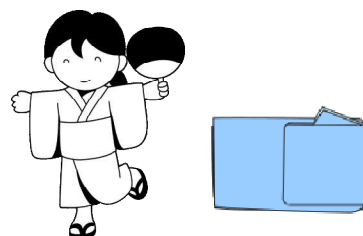
『大村はま』という人が偉大な教師であることは多くの人の知るところですが、具体性があるって誰にでもわかりやすく、そのとおりにすれば成功する、そういったことばで子どもたちに接してきたことがその背景にあると思います。

そして、このようなことばに対する鋭敏な感性は、母親のくらははじめ周囲の大人たちが発する一言一言のことばによって育てられ、磨かれたものに違いありません。

家庭、学校、社会一般において、「きちんとたたみなさい」「しっかりたたみなさい」といった雰囲気のことばが無雑作に使われているように思われます。

子どもたちを教導く立場にある大人が、「裾を持ちなさい」のような、響きの温かな、ついそのとおりにできるようなことばで、すらすらと言えるようにしたら、子どもたちにすっと受け入れられるでしょう。

すぐにはできなくても、大人たちが、そう心がけていったら、子どもたちをもっと容易に目標とするところに導くことができるのではと思うのです。



今年も残すところわずかとなりました。正月を迎える準備をしながら、この一年に思いをめぐらすのもこの時季ならではのですね。新型インフルエンザが猛威をふるっています。健康にはくれぐれもご留意いただき、良い年をお迎えください。

## 「子どもの問題行動は改善の最大のチャンス」

11月19日(木)、一宮桃の里ふれあい文化館において、石原俊道先生(山梨県立あさひワークホーム所長)を講師に招いて、第3回子育て講演会が開催されました。

中央児童相談所、障害福祉課、甲陽学園等、長年にわたる福祉専門職としての経験と、曹洞宗住職として仏教に関する深い造詣に基づいた講演に、120名の参加者は講師の話にうなずきながら聞き入っていました。

近代までは、祖父母から孫へ親から子へと、「死」を前提として「生」というものをさまざまな宗教儀礼や説話をもとに問いかけながら、子育てに生かすことが日常的に行われていました。そのような時代にあっては、死に対する畏怖の観念を養うことで、より良く生きようとする姿勢を幼少期から身に付けるよう子育てに生かしていました。

現代は、核家族化や社会の変化に伴い従来のような子育てが受け継がれにくい状況にありますが、子育てに老人の知恵を生かしたり、死を前提とした人生観を反映したりするなどの工夫をすることにより、教育課題の改善に役立てることができるのではという提言がありました。

### 【参加者の感想・意見】

- ・テンポのある話し方で、大変聞きやすかった。従来の子どもに関する講演だと、直接子どもの心理や対応に関する知識内容が大半であったが、今回はもっと奥にある精神論を学べたと感じます。
- ・人の生き方を良く論じてお話ししてくださりよかった。先祖を大切にすること、人としての尊さや広い気持ちを感じた。やさしさにも通じると思った。
- ・雑学は心の栄養、とても楽しい時間を過ごせました。先生の話の中に、先祖、宗教、自然そして命を大切にするという大事な教えがいくつも入っていました。先生の話の形にはめず、自由な立場でまた聞きたいと思いました。



講師 石原俊道先生



## 誠心祭『作品展』

石和誠心幼稚園

11月21日(土)、石和誠心幼稚園(笛吹市)で誠心祭『作品展』が開催されました。

4月から子どもたちが制作した絵画や工作、粘土・焼き物などの造形作品を展示して室内活動の様子を発表するものです。各種作品展示に加えて、学年毎にテーマを設定し、「動く展示」として制作した作品を使いながら発表する場面が設けられているところに『作品展』の特色があります。

### 【学年テーマ】

- 年少;「お店屋さん」・・・マリーゴールドの花から抽出した染料で絞り染めのハンカチを作りました。予め、各家庭にお金代わりのチケットを渡しておいて、当日「お店屋さん」で、自分が作ったハンカチを買ってもらいました。
- 年中;「ぼくたち・わたしたちの家」・・・おままごとやお家ごっこをする中で、自分たちのイメージを生かしてお家を作ることになりました。廃材を使って、さまざまなアイデアを取り入れたお部屋がたくさんある小さなお家ができました。
- 年長;「昔の暮らし」・・・稲の栽培から収穫・脱穀・精米の作業を通して、大昔の人々はどのような生活をしていたのかに興味を持ちました。県立考古博物館へ行って、住むところ・食べ物・着る物・いろいろな道具など大昔の人の暮らしを調べました。土器づくりにも挑戦しました。

作品展を見学して、「なすことによって学ぶ」活動を仕組むことで、「子どもが共通の目標に向かって協同で活動を行い、主体的に参加する」という園の保育理念を感じました。



ゆうぎ室で「昔の暮らし」を発表

## 双葉幼稚園 『さくひんてん』

11月28日(土)双葉幼稚園(山梨市)で『さくひんてん』が開かれました。

今年度で41回目を迎えた行事です。今回のテーマは「うみのまち」です。アーチをくぐると玄関です。玄関右側にあるホールには、みんなで作った数多くの作品が展示されています。



玄関のアーチ

これらの作品は、1か月前から園児たちのアイデアを先生が具現化し、クラスごとに制作したお店です。たくさんの保護者が園児といっしょに訪れ、作品を熱心に見ていました。

ホールいっぱいにつくられたお店を見ると、「あいすやさん」「さかなやさん」「はなやさん」「みんなのぱんやさん」など、身近にあるお店屋さんをヒントにつくられたお店がありました。また、「うみのおすしやさん」「すいちゅうめがねやさん」「ペンぎんかきごおりやさん」「せんすいかんやさん」など、『うみのまち』ならではのお店もありました。



ホールでの展示



「うみのおすしやさん」

園では、1か月以上前から取り組んできた「お店づくり」「品物づくり」「お店屋さんごっこ」の活動を、社会の仕組みを知る機会 みんなで役割を分担して、かかわり合い、仲間をつくる機会 文字や数字にふれる機会と捉え、総合的な指導を行ってきました。

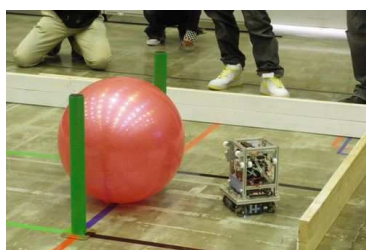
『さくひんてん』の後、つくったお店を使って「おみせやさんごっこ」に発展させ、遊びます。

幼児の生活は、「つくってみたい」「つくったもので遊んでみたい」「売ってみたい」「買ってみたい」など、興味や関心にもとづいた自発的な活動から成り立っています。「ごっこ遊び」という自発的な活動は、幼児が心身全体を働かせ、体験をとおして全体的な発達の基礎を築いていくものとなります。

## 「ロボコンやまなし2009」で連続優勝！！

### ～産業技術短期大学校～

11月21日(土)にアイメッセに於いて開催された「ロボコンやまなし2009」の競技大会に本校、電子技術科の学生が製作したロボットとソーラーカーが出場し、2部門でそれぞれ優勝しました。



(玉転がし競技)

ロボットが玉を転がしながら決められたコースを通過してゴールを目指す「自律型ロボットによる玉転がし競争」部門(大学・一般の部)では、9台のロボットがエントリーした中、本校の「Sun-Roller」は大きなボール



をセンサで感知しながら巧みに操作し、ゴールまでの最長距離を達したことにより、強豪チームに競り勝って優勝し、この部門で3連覇となりました。



(ソーラーカー競技)

また、今年度新たに競技に加わった「ソーラーカー競技」部門に、県内外から22台のソーラーカーがエントリーした中、本校からは3台が出場しました。この競技は、ソーラーパネルで充電したエネルギーにより、決められたコースを様々な障害物をクリアしながら走る競技で、本校では、2台が決勝まで勝ち進み、みごと最短時間で完走し優勝・準優勝になりました。

卒業研究として取り組んできた成果が現れた瞬間でした。



# きこえとことばの相談支援

お子さんのきこえやことばのご心配はありませんか？  
学校や職場でのきこえやコミュニケーションの悩みはありませんか？補聴器の調子はいかがですか？



『きこえとことばの相談支援センター』では、0歳から成人の方のきこえやことばに関する相談・支援を行っています。

- きこえやことばについての教育相談
- 地域で学ぶ子どもたちへの支援
- 幼稚園・保育園、学校等への支援
- 卒業生・成人聴覚障害者への進学・就学及び聴覚管理等の支援
- 聴覚障害児・者にかかわる理解・啓発活動
- 他機関との連携推進
- 同じ状況にある子ども、保護者間の交流



## 乳幼児期

まず、心配や不安を話し合うことから始めます。**抱えている悩みを一緒に考えましょう。**お子さんのきこえやことばの様子を見ながら、日常生活の中で親子でどのようにかわり、伝え合っていたらよいのかアドバイスし、**楽しくコミュニケーションできるための支援**をします。

お子さんのすこやかな成長のために早めにご相談ください。

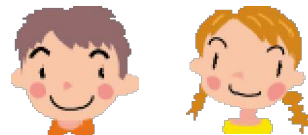


## 学齢期

小中学校に在籍しているきこえにくいお子さんは、とてもあいまいな中で生活しています。理解しているように見えても、きちんと伝わってなかったり、**聞き間違えや聞き落とし**もあります。また、1対1の会話は問題なくても、複数の人との会話、特に話し合いが苦手です。

曖昧な生活の中で、あきらめてしまったり、**コミュニケーションがうまくとれず傷ついたり**など学年が上がってくると、本人の心のケアも必要になります。

**聴覚障害は見た目ではなかなか分かりにくい障害**ですので、どのような配慮をしたらよいのか専門的な見方が必要です。通常の学級に在籍する聴覚障害児への「**通級による指導**」、難聴学級に在る児童生徒への「**難聴学級支援**」、きこえにくいお子さんへの「**教育相談**」を行っています。



## 高校・成人期

聴覚障害児（者）にとって、高校や大学での授業や講義は、情報量も多く、進度も速いため、内容を全てききとったり理解することは難しく、**適切なサポート**が必要です。進学や就職など進路の問題も考えるとき、**サポート体制についての情報**を提供します。また、就職後、職場のコミュニケーションで悩んでいる聴覚障害者も多く、**職場でスムーズなやりとりができるための支援**をします。

お子さんのきこえやことばにご心配のある保護者の方、保育園や幼稚園の先生、小中学校や高校の先生、職場の聴覚障害者とのコミュニケーションなどでご相談のある方などお気軽にご相談ください。

## 山梨県立ろう学校

### きこえとことばの相談支援センター

〒405 0016 山梨市大野1009 (山梨県立ろう学校内)

TEL 0553-22-1378 FAX 0553-22-6419

Email sodan@rogako.kai.ed.jp



